

静岡文化芸術大学図書館・情報センターだより

新 知 人 故 郷

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2005.1 Vol.2

平成17年1月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市野口町1794-1
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/lib/index.html>

Contents:

表紙

「円山応挙画集(図版編)」①

巻頭言

古典への旅——「うなぎパイ」からアウグスチヌスへ——②

静岡文化芸術大学副学長・文化政策学部長
上野 征洋

図書館散歩

四つの図書館と著者とが結びついた素晴らしい日々③

デザイン研究科長・空間造形学科教授
川口 宗敏

シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう! 朝日DNA(聞蔵)編——④

知っていますか?こんなサービス——⑥



狩野博幸他編集「円山應挙画集」京都新聞社 1999 (721.6/Ma 59)

ゆきまつずびょうぶ

雪松図屏風

円山 応挙

ゆきまつずびょうぶ

雪松図屏風 (六曲一双。右隻に力強い雄松、左隻に優美な雌松)

時折枝からこぼれ落ちる粉雪の音以外は何も聞こえない。雪に一面覆われた音のない世界。ヒトも動物も小鳥もまだ目覚める前の、何物にも汚されていない神聖さが新雪の朝にはある。

一面の雪景色を表現するには普通は銀を使用する。しかし、応挙はあえて金を使用して光線の温かさを意識させ、いきいきとした画面構成としている。三井文庫所蔵。

まるやま おうきょ

円山 応挙 (1733-95、享保18-寛政7)

江戸中期の京都では、既存の狩野派や土佐派などに対し、新しい絵画を作り出そうとする気風がわきおこり、優れた画匠が数多く現れた。文人画と並んで大きな役割を果たしたのが、円山応挙に始まる円山派であった。

応挙は京都府亀岡市の農家に生まれ、京都で画技を学んだ。写生を絵画の最も大切な要素としてみなしていた応挙の生きた時代は、大陸からの外科書、本草学の流行にうかがわれるような、実証の世であった。その背景のもとに、平明でわかりやすい作画構成で、朝廷においても評価される高い品格と広く人々に愛される庶民性を兼ね備えた画家として一派を成し、後世の画壇にも強い影響を与えた。

*佐々木丞平等編著『大雅と応挙』講談社 1993 245p. (日本美術全集19 より引用・加筆 (708/N77/19))



静岡文化芸術大学副学長・文化政策学部長

上野 征洋

Ueno Yukihiko

文中に登場した図書

エラスムス著
痴愚神礼讃

081 / lw 5 / 804

エラスムス、モア著
対話集、ユートピア
(世界の名著17)

108 / Se22 / 17

アウグスティヌス著
神の国
(アウグスティヌス著作集11-15)

132.1 / A96 / 11-15

アウグスティヌス著
告白

081 / lw 11 / 805-1,2

ホイジンガ著
中世の秋
(ホイジンガ選集6)

208 / H98 / 6

プラトン著
プラトン全集

131.3 / P71-2 / 1-15

アリストテレス著
アリストテレス全集

131.4 / A791 / 1-17

ラブレール著
ガルガンチュアと
パンタグリユエル物語
現在購入手続き中

古典への旅——「うなぎパイ」から アウグスチヌスへ

浜松に「うなぎパイ」という菓子があり、人気の銘菓であることを知ったのは、開学準備のために東京～浜松を往復していた6年ほど前のことだった。ある日、東京の友人のために買い求め、新幹線の中で包装紙を眺めているうちに、突然エラスムスを思い出した。わが国では『痴愚神礼讃(または愚神礼讃)』で知られるルネサンス期オランダが生んだ「ユマニスト(人文主義者)の王」である。

『痴愚神礼讃』ほど知られていないが、エラスムスには『対話集』という著作があり、その中に「鰻入りパイ」の話が出てくることが脳裏をよぎったのである。『対話集』を読んだのはすでに30年余り前のことである。おぼろげな記憶を頼りに自宅の書架を探すと、その一節はすぐに発見できた。『対話集』の半ばで、肉屋と魚屋の言説を借りて繰り出されるカトリックとユダヤ律法の神学論争のくだりに「鰻入りのパイで9人の命が失われた」という記述がある。「鰻入りのパイ」と「うなぎパイ」は似て非なるものだが、その日は、なぜか「うなぎパイ」のおかげで久しぶりにエラスムスを再読する機会に恵まれた。

エラスムスの『痴愚神礼讃』がトマス・モアに献呈されたことはよく知られているが、これは、ロンドンのモア邸に滞在中に執筆されたことによる。彼は英仏戦争のさなか、オランダ、イギリス、フランスを移り住みながら、ヨーロッパ全土にその影響力を拡散させてゆく。そのアイロニカルな視点はモアの『ユートピア』はもちろん、ラブレールの『ガルガンチュアとパンタグリユエル』に色濃く投影されてゆく。エラスムスとモアの諷刺は教会支配による当時のヨーロッパにおける知的荒廃に向けられているが、その筆鋒の鋭さにはアウグスチヌスの影響が見てとれる。エラスムスもモアも若き日にアウグスチヌスの『神の国』『告白』の研究に没頭していた時期があったことが、様々な記録に残されている。

アウグスチヌスもまたローマ支配の中で「神の国」と「人の国」の悲惨に警鐘を鳴らし、中世神学の礎となる「神との対話(自己の対話でもある)」を説いた巨人である。放縦な青年時代を自省しつつ、かつて自らが心酔したマニ教徒に対し、カトリックへの帰依を説く『告白』の内容はまさに「にんげんドキュメント」の観がある。

いま、振り返ってみると、私の読書遍歴は「旅」であった。エラスムスへの旅をいざなったのはホイジンガである。彼の代表作『中世の秋』に描き出されたブルゴーニュ公国の興亡は、まさにエラスムスやモアの精神形成に投影されている。20世紀の悲惨を憂慮したホイジンガの記憶は、エラスムスへ。エラスムスの足跡はモアを触発し、モアは若きアウグスチヌスの葛藤に「ユートピア」を構想する。私の読書癖はこのような連鎖に触発されての「はしご」である。梯子を登るように川下から川上へ。そして、なぜかいつもプラトンやアリストテレスの前で立ち往生して、20世紀の思想へと戻ってくる。

20世紀前半のフランスの知性マリ・デルクールは、エラスムス、モア、ラブレールに一貫して流れるのは「大きな希望と陽気な大胆さ」であるとする。これは悲惨な時代に楔を打ちこむための旗印でもあった。

昨年夏、ホイジンガ、エラスムスの故国オランダを巡り、車を駆って、モアが『ユートピア』を書く契機となったアントワープ、そしてブルゴーニュへと足を伸ばしてみた。ホイジンガが描いたブルゴーニュ公国の地は、いまも、なだらかな斜面に葡萄がたわわに実り、600年前と何ら変わらぬようであった。丘陵の上からはローヌ川上流の人々の営みがゆったりとした時間の中を流れていることが見てとれた。ホイジンガの「いかなる文化も心の温かさを欠いて存続することはできない」という声が聞こえてくるようだった。

(うえの・ゆきひろ = 本学副学長、文化政策学部長)



デザイン研究科長・空間造形学科教授

川口 宗敏

Kawaguchi Munetoshi

文中に登場した図書

Clay Lancaster著
The Japanese
influence in America
現在購入手続中

Alexander Tzonis著
Towards
A Non-oppressive
Environment
現在購入手続中

Arthur Drexler著
Architecture of the
Ecole des Beaux-Arts
現在購入手続中

Kevin Lynch著
The image of the city
518.8 / L99

四つの図書館と著者と著書とが結びついた素晴らしい日々

最も本を読んだ時代、いや正確には読まざるを得なかった時代、ハーバード大学大学院で都市デザインを学んでいた頃である。その当時、利用頻度が高かった四つの図書館を思い出す。

第一の図書館は、イェンチン図書館である。この図書館には、二・三日遅れの日本の新聞、それに週刊誌や月刊誌があった。朝、忙しくない時は、ここに立ち寄り日本語の新聞や雑誌を読んで、気分転換を図るのに好都合の場所であった。この建物は、元駐日大使を務めたReischauer教授などが教鞭を取っていた東洋研究所があり、地下一階には、日本関係の豊富な図書が揃っていた。この図書館で思い出す一冊の図書を挙げるとすれば、Clay Lancaster著「The Japanese influence in America」がある。アメリカに影響を及ぼした日本の建築・庭園文化について書かれた本で、調査及び分析内容に感心した。後年、偶然にも神田の古本屋で見つけ、即座に購入した。

第二の図書館は、デザイン学部が入っていたグランドホールの図書館である。自分の設計スタジオが五階にあり、地下一階は建築・都市・ランドスケープデザイン関係の書籍・雑誌で占められていた。暇な時は、この図書館でデザイン関連の写真雑誌をパラパラ見るのが楽しみであった。この図書館と関係した図書を一冊挙げるとすれば、Alexander Tzonis教授の著書「Towards A Non-Oppressive Environment(訳書:建築の知の構造)」である。この本は、建築思想の歴史的変遷を記述しており、クリスマス休暇を利用して、他の日本人留学生と短期間で日本語訳をしたからである。著者は、非常に博識で魅力的な先生であった。

第三の図書館は、フォッグ美術館の図書館である。ここには、Frank Lloyd Wright やAntonio Gaudi等の貴重な美術関連書籍が沢山あり、有効に利用させて頂いた。読書に飽きると、二・三階の作品展示室を覗いたりした。建物は、イタリア古典主義様式の美しい中庭を持つ美術館であった。この図書館と関係した図書を一冊挙げるとすれば、Arthur Drexler編集の「The Architecture of the Ecole des Beaux-Arts」である。この本には、講義を受講していたNeil Levine助教授がエッセイを寄稿しており、十九世紀Beaux-Artsの建築デザイン教育の成果である素晴らしいカラー図面が多数収録されていた。ボストンの本屋で同書を見つけた時、学生にとっては高額ではあったが、無理して購入した。今でも時々手にとり、美しい設計図を見るのは楽しい一時である。

第四の図書館は、MIT建築・計画学部の図書館である。MITで三つの講義を受講していたので、常に利用者の少なかった建築・計画学部の図書館もよく利用した。この図書館と関係した図書を一冊挙げるとすれば、Kevin Lynch教授の「The Image of the City(訳書:都市のイメージ)」である。日本で訳本を読んでおり、非常に独創的な都市形態分析の図書であった。そこで、MITでは非、Lynch教授の講義を取りたいと考え、実際、受講することができた。

以上の様に、この時代、珍しく図書館と著者と著書の三者が密接に関係していた、幸せな時代であった。しかし、我々仲間内では、ハーバード修道院と読んでいた時代でもあり、大量のassignmentから一日でも早く逃れることができたならと苦闘していた時代でもあった。今にして思えば、苦悩した過去ほど、思い出によって美化されてしまっているかもしれない。

(かわぐち・むねとし = 本学大学院デザイン研究科長、空間造形学科教授)

聞蔵(きくぞう):朝日新聞オンライン記事データベース編

朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵(きくぞう)DNA for Libraries」とは？

1984年8月以降の400万件にのぼる記事()を高速に検索できます。

朝日新聞(地方版も含む)・AERA(創刊号から)・週刊朝日(ニュース面のみ)の記事も検索できます。なお、検索記事の写真画像や図表は表示されません。

図書館・情報センターが所蔵する朝日新聞の原紙保存年限は3か年です。

なお、「朝日新聞縮刷版」(1945-46年、1969年～最新刊まで)は1階の電動書架内に所蔵しています。

このデータベースは1984年8月以降から当日の朝刊まで検索できるので、大変便利です！

聞蔵は学内限定のデータベースで、学内であればどこからでも利用できます。ただし一度に接続できるのは1名のみです。

接続できない場合は他の人が使用中ですので、しばらく時間を置いてから利用してください。

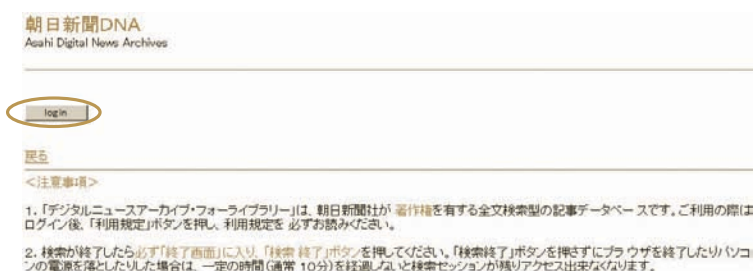
学内向けHPから“朝日新聞DNA”をクリックします。
また、図書館・情報センターリンク集“学内限定データベース”からも利用できます。

ステップ 1



“log in”ボタンをクリックします。

ステップ 2



“シンプル検索”をクリックします。

ステップ 3



〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！②

ステップ 4

検索キーとして“ 静岡文化芸術大学 ”と入力します。また、ここで表示したいリスト件数が選択できます。(表示件数は100件に設定してみます。)

ステップ 5

検索結果が表示されました。ここでNo.0005の記事をクリックします。

検索結果

ここに (1) 「発行日」、「朝・夕刊別」、「掲載面」、「掲載頁」、「発行社」、「記事の文字数」のデータが表示されます。

実際の新聞記事と同様の内容が画面上に表示されます。

また、検索対象語に対して“ ハイライト ”されます。(2)

また、この検索結果は印刷することも可能です。論文やレポートに充分役立ててください。

ステップ 6

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！②

(注意)表示できない記事について

このように、検索結果が緑色で表示された記事については、著作権の関係上、詳細を見ることができません。詳細は保管されている朝日新聞(3年間分)や古いものであれば縮刷版を参照してください。

00065 2001年02月17日 朝刊 静岡2 Q30 04905文字
週末情報 / 静岡

00066 2001年02月01日 朝刊 静岡1 Q35 00329文字
ユニーク授業への取り組み発表 浜松市立北小 / 静岡

00067 2001年01月18日 朝刊 東特集D Q25 09448文字
演劇「真実の生」2夜連続 人の出立、人の入る美 朝日舞台芸術賞創設

00068 2000年12月29日 朝刊 静岡1 Q33 02239文字
社会・スポーツ(2000年この一年:下) / 静岡

00069 2000年12月15日 夕刊 文化 Q15 03084文字
演劇 新世紀の扉開く「グルックス」(回顧2000)

(参考)パワフル検索

朝夕刊、検索対象紙(誌)別に検索できたり、本誌・地方版別、さらには発行社別といった絞り込みもできます。

目的の記事の掲載情報が事前にわかっている時はパワフル検索が便利です。

このように、冊子体版と違い、聞蔵は瞬時に検索できるので便利です。

また、冊子体では記事文中の単語を見つけるのは非常に困難ですが、聞蔵ではキーワード検索を行うことにより素早く、網羅的に調べられるのが特徴です。学生の皆さん、どんどん活用してください。

知っていますか？こんなサービス

<一夜貸出>

参考図書及び逐次刊行物(最新号以外の雑誌、紀要、縮刷版の新聞)については、次に掲げる条件で貸出を受けることができます。受付カウンターで貸出して続きを行います。「一夜貸出利用届」に記入して下さい。(ABCでは、貸出・返却はできません)

ただし学外者の方は利用できません。

資料名	貸出冊数
最新号を除く雑誌	3冊以内
その他の資料	制限なし

貸出期間
16:30～翌開館日の9:30まで (金曜日貸出の場合は、翌月曜日の9:30まで)

一夜貸出利用届		貸出日 2004年 月 日 ()	
所蔵(資料)	学年	氏名	
姓 名	学 号	返却確認	

* 雑誌の貸出は最新号を除き、3冊以内。
* 貸出期間は、16:30～翌開館日の9:30まで。
(金曜日貸出の場合は、翌月曜日の9:30まで)
返却期限を必ず守ってください。

本の詳細な情報がわからない時はカウンターに相談してください。